

# 安来拳

安来市文化財愛護の会

## 1、安来拳とは

安来拳は、狐拳の一種で「三すくみ拳」であり、安来節の発達と共に広がったと思われます。

## 2、三すくみ拳

お互いに勝ち負けのある拳の事で、「ジャン拳」もその一つです。

狐拳は「狐」「庄屋」「鉄砲」の三拳で勝負します。「狐」は「庄屋」に勝ち、「庄屋」は「鉄砲」に勝ち、「鉄砲」は「狐」に勝つ。すなわち三すくみとなります。

「三すくみ拳」は、安来拳のほかに「磯拳」「広島拳」などがあります。

## 3、拳の手

「狐」は手の平を相手に見せ肩の高さで両手同時に出します。

「庄屋」は手の甲を相手に見せ両膝の上に置きます。

「鉄砲」は握りこぶしを肩の高さで突き出します。

## 4、安来拳のテンポ

安来節に合わせて手拍子を打ち、最後の一拍（やすぎーぶーしー）のあと

|          |      |        |    |      |        |    |      |
|----------|------|--------|----|------|--------|----|------|
| ハイサ      | ハイドン | キターコラサ | 二拍 | 一拍   | トコサ    | 一拍 | トコドン |
| (一拍)     | (一拍) |        |    |      | (捨て拳)  |    | (本拳) |
| キターコラサ二拍 | 一拍   | トコサ    | 一拍 | トコドン | と続けます。 |    |      |
|          |      | (捨て拳)  |    | (本拳) |        |    |      |

## 5、勝ち負け

安来拳は、二拳続けて勝つと「勝ち」になります。お互いに一拳ずつでも勝ったり、同じ拳（狐なら狐、庄屋なら庄屋）のときは、いつまでも続きます。

## 6、拳のルーツ

拳は、1600年代中頃に中国から「ジャン拳」が渡来したと云われています。その後1800年代前半に「狐拳」が中国から長崎に渡ったとされており、その後日本各地で形を変えて広まったものと考えられます。

## 安来拳の「合いの手」

「合いの手」(せりふ)は安来拳を一層楽しく、賑やかにする手段です。拳のテンポと勝ち負けの判断が身についたら「合いの手」を覚えると一層楽しくなります。

「合いの手」は「キターコラサ」の所と「トコサ、トコドン」のところで入れます。

「合いの手」は「短いもの」と「長いもの」があり短いのは「キターコラサ」の所に入れ、長いのは「トコサ、トコドン」の所に入れます。

### 長い合いの手

(いつでも入れられる)

表はドンチャン裏からコッソリ                      伯耆は大山、因幡は鳥取

(一拳勝ったとき)

一拳頂戴、今度はおしまい                      一拳頂戴、今度は下げ(上げ)番  
全体あなたは、その手を上げ(下げ)たる

(一拳負けたとき)

一拳やったら喜んだ                      一拳やったら今度は頂戴  
一拳やったら今度は上げ(下げ)番

(合い拳のとき)

お互い拳なら互いの損                      お互い拳なら今度は上げ(下げ)番

### 短い合いの手

(一拳勝ったとき)

一拳頂戴な                      一拳持って来た                      おいでたな

(一拳負けたとき)

しもちゃったな                      惜しかるな

(合い拳のとき)

合い拳だな                      お互いもな                      お払いもな